



03  
—  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12

タイトル番号：0056

書名：天明大政録

1冊

天明大政錄 目次

- |              |               |                 |
|--------------|---------------|-----------------|
| 一<br>采價高直    | 一<br>伊奈叙爵     | 三<br>同邸、町中ヲ召呼   |
| 一<br>石河上佐町奉行 | 一<br>伊奈町廻り    | 六<br>采庫、封印      |
| 一<br>御府内御赦   | 八<br>近鄉ヨリ出来   | 九<br>内与力止       |
| 一<br>町奉行所前壁書 | 土<br>土州裁許二箇   | 一<br>白川侯加判列     |
| 一<br>同美事十箇   | 一<br>朱ノ御觸     | 五<br>山田茂平文武師    |
| 一<br>御旗本庄之諭書 | 一<br>御役人中庄之同断 | 一<br>御老中方被仰合    |
| 一<br>御勘定方被仰渡 | 一<br>尾陽美事     | 一<br>白川侯美事四箇    |
| 一<br>彦根侯御役御覽 | 一<br>聖堂講釈     | 一<br>同御旗本御家庄之諭書 |
| 一<br>白川侯西勝手拭 | 一<br>田沼一件     | 一<br>同家中庄之諭書    |
| 一<br>武家諸法度   | 一<br>采澤国政     | 一<br>同御旗本御家庄之諭書 |



切金

柳生ヨリ諭書

奥女中

白川侯書翰

禾穀序買上

うきよ

京師災二箇

浚庸御遺物

求龍之説

丁未風説

白川侯御勝手方中被招

京兆西尾侯家政

白川侯并領物

朝鮮種人參

未年風説

浪花武術

東都ヨリ來翰

在方丘之指紙

鐵坐

酒造

御出棺

御達暨批判

京師人之詰古箇

高階氏詰三十二箇

町田氏詰十三箇

白川侯御勝手方中被招

京兆西尾侯家政

白川侯并領物

儒學御試

資枝ノ各氏書翰

土山宗兵衛一件

壁畳

諸人講釈聽聞

酒造三箇

供立

箕浦氏詰三十五箇

高階氏詰三十二箇

町田氏詰十三箇

白川侯御勝手方中被招

京兆西尾侯家政

白川侯并領物

諸向料紙

西尾侯上京

交代代

町中江諭書

巡見二箇

田沼御手傳

放馬

大井川之不法

轉役

密通内署

福島御預ナ

六番 憐夷

一五 廣東人卷

六六 諸向料紙

一七 白川侯上京

一六 小堀一件

六九 西尾侯上京

一八 天狗星

一七 朝鮮人

七二 献上物

一九 山羊在府人減

一七 青木楠五郎一件

七五 交代代

二〇 轉役

二一 千葉高江申渡

一六 博夷御咎

二二 轉役

二三 両家上納金

一六 金森家再出

二四 参内

一九 御禁地

一九 放馬

二五 五人男

一九 轉役

二六 宮村御預ナ

一九 轉役

九七、古河侯ヒリ

一、御自筆并領

一、小普請江御諭

一百一、貳朱判

一、巡見

一、御賄江被仰渡

一百一、廻采

一、勅旨

一、丹澤氏書翰

一百一、切金

一、拔荷

一、五穀豐熟祈禱

一百一、僧侶シ之諭

一、忠孝

一、大洲侯江教諭

一百一、巡見

一、大坂田穀

一、古川平二郎書簡

一百一、駄路

一、改元

一、阿蘭陀獻上

一百一、脚誕生

一、堀平太左衛門

一、御婚姻

一百一、下總猿島仇討

一、白川侯上京

一、同下乗所

一百一、福島又四郎内咎

一、戸田鉄五郎口答

一、留守居慎

一百一、一

一、博徒剃髪

一、數珠祈禱

一百一、一

一、藏宿機錄

一、後藤縫殿助休株

一百三、四月廿日施解

一百三、口醫師江同

一百三、孝子善人記錄尋

一百三、留守居江口守

一百三、禁裏造宮口憲

一百三、轉役

一百六、領邑田采

一百六、招請止

一百六、藏宿機錄

一百九、中洲取拂

一百九、八丁堀川筋堀上

一百九、後藤縫殿助休株

一百十二、苗守居寄合停

以上

求龍之說 備藩 湯淺新兵衛明善謹輯

懿矣哉龍之於蟲魚也猶麒麟之於走獸  
鳳凰之於飛鳥泰山之於丘垤河海於行  
潦也而其為形也鴻洞輪囷豐盈脩長目  
如電舌如劍腹如玳瑁鱗如列星而望之  
或如霓之垂或如朝日之陽或如煙雲或  
如山岳其驤首而一躍則雲霧或集風波  
忽起鰐鮀於是乎奔龜鼈於是乎伏藏猗  
矣哉龍之為物也可謂盛且大也予欲見  
直竚有年于此然而不知其所也或語予  
曰某山之陰有潛龍焉予聞之大喜不覺

起而躍者三焉將行而見之既而予自以  
爲龍之爲物也顯隱屈伸神變化無極小則  
隱指甲大則蟠於天地上之則薄於日月  
下之則潛九渊乍飛乍潛知幾知微能其  
時也猗々龍之爲物也可謂天下之至靈  
也予今雖見龍而龍若雖欲見必蟠泥中  
沉深渙遲而不覺也必矣苟如是耶假今  
予行以求之亦復何益予於是仰天長歎今  
曰嗚呼直龍之難見何其如是也初予欲  
見之而不知其處也今也雖知其處而不  
可得而見其行乎龍不見予其不行好画

龍直龍遂來而窺葉山蓋公者徒好画龍  
而直龍窺之况予奚求直龍者乎彼窺予  
不可疑也若其求之心不誠奚也雖行而  
求之彼避而不見予亦可疑也又不求彼  
于此而徒求此于彼乎遂不果行而求之  
心愈切矣

右執政白河侯之所著也云

成未七月中沙沽子錄

謹言附後上乞勿教舟向門庭而遠書之有識  
愚者已生以事大法沒人氣元方子彈頭而風俗

お邊たり既て聲の如くなり刀刃と交る程巻き事勿論（アマツシテノリ）  
大神是乃御所御儀の名大名數（アマツシテノリ）一和也（アマツシテノリ）、  
たらば見事ハ當時の極無徳彦の風俗奸媚と並んで檜原  
と稱せ巡遊経遊（アマツシテノリ）と天下の宿禰（アマツシテノリ）と云ふ眼  
涙（アマツシテノリ）まよひて酒幣（アマツシテノリ）と云ひ放町人の怠慢者（アマツシテノリ）て天下の力（アマツシテノリ）と  
不無驚（アマツシテノリ）半（アマツシテノリ）權柄（アマツシテノリ）と云ひて馬（アマツシテノリ）を走ら（アマツシテノリ）御射（アマツシテノリ）と云（アマツシテノリ）  
生（アマツシテノリ）と自身の經（アマツシテノリ）たゞと胸の仰（アマツシテノリ）若焉起黒（アマツシテノリ）と云（アマツシテノリ）  
黒（アマツシテノリ）の如く御見（アマツシテノリ）かく少々年（アマツシテノリ）國（アマツシテノリ）の内（アマツシテノリ）一ツの也（アマツシテノリ）を登（アマツシテノリ）  
其（アマツシテノリ）將軍の高威光輝（アマツシテノリ）、萬能廣（アマツシテノリ）と即ちの如く（アマツシテノリ）、  
武湯の發動（アマツシテノリ）勝光（アマツシテノリ）と其圓滿（アマツシテノリ）を被於半（アマツシテノリ）の政權（アマツシテノリ）  
半（アマツシテノリ）邊（アマツシテノリ）と云（アマツシテノリ）、上と又へ度（アマツシテノリ）括（アマツシテノリ）の事（アマツシテノリ）前代（アマツシテノリ）あすの世（アマツシテノリ）無（アマツシテノリ）

馬上本領の城城主の元老院と手を結んで、  
其の文様は「己巳の馬」である。卒年未審、いわゆる  
と號す——

「赤十日馬上御」の國の所から、其の號傳は年傳出  
一 横矢の馬と而て威儀堂々の精良鞍。作成於江戸。  
諸國の忠義の多き之也。

一 う馬の度、上鏡山にて御上御庭の太船

上鏡山の御上御弓亦其の精良の如きと並び能精良仕  
海右之御上御庭の年傳出中、御上御弓。

一 馬の御上御弓。高馬ねじ松子を縫て、御上御弓也。

四枚馬下御料御上御弓の御上御弓也。

一 駿中馬脇の元歸主御上御弓。駿主馬毛毛頭を被  
毛頭を被り、御上御弓も成爲御上御弓也。後御弓  
一 何事と云々す御上御弓。御上御弓也。御上御弓也  
御上御弓也。御上御弓也。御上御弓也。御上御弓也  
御上御弓也。御上御弓也。御上御弓也。御上御弓也

一 丹波守之方御上御弓。駿主馬毛毛頭を被り、御上御弓  
御上御弓也。御上御弓也。御上御弓也。御上御弓也。御上御弓也  
御上御弓也。御上御弓也。御上御弓也。御上御弓也。御上御弓也  
御上御弓也。御上御弓也。御上御弓也。御上御弓也。御上御弓也  
御上御弓也。御上御弓也。御上御弓也。御上御弓也。御上御弓也

入らぬ子の如きを抱かんが人年より後よりは右家に至るゝ事無  
のを知るゝ事ある儘に此生も其の如く其の如く其の如く其の如く  
御の故や前あく所有する絶対第一殊の如き也勿れ之を失  
失する有り由の如きある者を御め有りて是の如き御退去は下流  
近人等の自殺未だ一過人を教出す中止即ち之の如き事無く其  
度口空耳有り因店舗も附むるお御とお御とお御とお御とお御  
丸毛和泉守の御役御免御事御免御事御免御事御免御事御免  
一物の御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免御  
是而無事御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免  
御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免  
御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免  
御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免  
御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免

おうひは御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免

### 同月西宮の御宿

一 唐山安藤七日政事より日から月日より御免御免御免御免  
御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免  
御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免

御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免

一 甚清と清清と相良と穀と有り一通里向と其の如く  
相良と其の如くと作成令子ハ万萬有一上生主とお御免御  
免御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免御免

山門退院の御

但平人主鼎上者，多敗國而亡。作有子之後，則後無敵矣。故曰：「不以權貴為威，不以財富為強。」

一 國級布袋戲的發展為何會受到抑制？  
二 京杭東北

已知其事而猶復以爲難者也

家内共も黒髪のままの其の夫人は駆け出でて作事仕事  
一四四〇年夏節の内燈籠を手取て東路と大金をもてて往  
伊豆の町と在りて、終日其の宿泊所に在りて、旅館中も其の松口す。翌冬の春  
布之四画作つらひ。此年も余の旅費也。との口承が今年も  
浦安室町宿泊中。一月後半より如何と四年。伊豆の旅館が  
忠入本中油井仕事

一念之間萬事流於不復也。因行之日亦知右隱密事。  
而已舊事又復有追憶之名前此每尋故跡已回人日謝後  
已多矣。今也既已作他處，但偶入夢中，故於他處不復見也。  
漸虎口之西過一村，有深山草堂，如隱密之隱密，往往與之  
揚眉而入。往往油活活然，猶綠苔也。